

**「汝の神、主の名を妄（みだり）に口にあぐべからず」**

「あなたの神主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおられない。」（出エジプト記 20:7）

「みだりに」という言葉は、むなしいこと、つまらないもののために、軽々しく、偽りに、悪い目的を持って、との意味が含まれています。機械的に呪文のように繰り返して唱える異教的な習慣を暗示しているかのようです。聖なる、敬虔な言葉を自分の欲望や目的のために使い、神を自分の思いで強制しようとする意図で神の名を使うことです。

神様はイスラエルにご自身の名を知らせました。「私はある」つまり、自ら存在しておられるという方は、その名のとおり、人間が名をつける方ではなく、啓示されたその名に人間が信頼し、服従するためにおられるのです。

神様がイスラエルを奴隷であったエジプトの地から導き出したのは、神様を崇め、み名を讃美させるためでした。第一戒、二戒が真の神を正しく礼拝するためなら、第三戒は神様の前でどのように生きるかが問われます。神の名を呼ぶことが許された者として、全人格を持って主を讃美し、応答して生きていかなければならないのです。神の名を呼ぶことは口だけではなく、どのように生きるかの問題です。

「そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。（コロサイ 3:17）」と聖書に書かれているように、独り子主イエスの名によって、父なる神様に近づくように恵みを与えてくださいました。そのゆえ、主の名をみだりに唱えることは、神様との関係の破棄であり、主なる神を畏れないことで、神様の愛がそれを受け入れることができないのです。

真に恐れるべきもの、崇めるべきものを、自分自身の言葉で虚しくしていることは、私たちが愛しておられるゆえに神様が罰せずにはおられないのです。

**\*共に祈りましょう。**

- ・父なる神のみ名を全身全霊で讃美しましょう。
- ・主イエスの恵みに感謝し、私たちがすべてを主のみ名によって行うことができますように、御導きと助けを祈りましょう。
- ・海老名教会での礼拝が私たちの神、主の名を心から崇め、讃美する時間でありますように、今は、声を出せませんが、いつかは声高く共にほめたたえることができますように祈りましょう。